

★「高企連携」News & Topics	
北海道	外部交流を活かす etc. 2
東北	就職情報交換会 etc. 3
関東・首都圏	和牛甲子園 etc. 5
東海・北陸	キャリア教育モデル校 etc. 7
近畿・中国・四国	食肉業界 etc. 9
九州・沖縄	商業実践+模擬会社 etc. 11
グローバル	スリランカレポート 12

高校の先生方との
連携による紙面編集

支援 & 就職ジャーナル

「キャリア&就職支援ジャーナル[高等学校版]」は高校の先生方と民間企業・行政機関、および大学・短期大学・専門学校等を結びつけるフリーペーパーです。Career & Job-hunting-activities Times for High School teachers [通巻第57号]

文部科学省「学校基本調査(確定値)」にみる高校新卒者の進路動向

「進学」「就職」を問わず、多くの高校3年次の生徒が、それぞれの新しい進路に向けてラストスパートをかけていることだろう。今号では、12月20日に文部科学省から公表された「令和5年度学校基本調査」の確定値をもとに高校新規卒業生の最新の進路動向を探ると共に、高校新卒就職者を取り巻く環境についても概観する。

18歳人口減少期に突入 進学と就職は相反関係

文部科学省が12月20日に公表した「令和5年度学校基本調査」の確定値によれば、令和5年3月に新しく全日制または定時制の高等学校を卒業した者は96万2,009人で、令和4年3月卒業の99万230人からさらに2万8,221人の減少が見られた。それまで100万人台だったその数が、令和4年度以降90万人台に突入し、現在も減少を続けている。

進路内訳に注目すると、「大学(学部)進学者」は54万6,498人で全体の56.8%、「短期大学(本科)進学者」は3万2,946人で全体の3.4%と、6割以上の高校新規卒業者が大学または短大に進学を果たしていることが分かった。その次に大きい割合を占めた

のが「就職者等」の13万6,509人で、全体の14.2%だった。

大学・短大進学者に専門学校進学者を合わせた「高等教育機関進学者」に関しては、73万5,360人で全体の76.4%を占めている。これに、「各種学校等」「公共職業能力開発施設等」に進んだ者の数を合わせると77万4,304人(80.5%)となり、実に8割以上の高校新規卒業者が、何らかの形で“学び”を継続中であることが分かった。一方、就職者等は14万5,887人から9,378人減少し、卒業者に占める割合も14.7%から0.5%低下した14.2%だった。伸長する進学率に対して、就職をする高校新規卒業者は減少傾向にある。

特に、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染拡大の影響で緊急事態宣言が発令された令和2年

度以降、就職者数の減少が著しい。その要因の一つとして、COVID-19の影響から不透明となった雇用環境を懸念し、就職から進学に進路を切り替えた高校生が少なくなかったことが挙げられるだろう。

また、令和2年4月から導入された「国の高等教育の修学支援新制度」の存在も無視できない。これは、「授業料・入学金の免除または減免」と「給付型奨学金の支給」を組み合わせることによって、学習意欲があるにも関わらず家庭の経済的な事情等により進学をあきらめざるを得なかった高校生の進学を可能にするという趣旨の画期的な仕組みのこと。

文部科学省の調査によると、この制度導入前は住民税非課税世帯の進学率が4割程度だったのに対して、導入2年目の令和3年度には5割を超えたことが明らかになっている。学費や生活費を工面するだけではなく、家庭でも仕送り額を減らすことが可能になり、結果として、進学者の絶対数を押し上げる形になった可能性が考えられる。

令和6年度には改正も予定され、対象範囲が「中間所得層」にまで拡大される。年収600万円程度までの「多子世帯」と私立の「理工農系の進学者」を新たな支援区分として設けるなど、少子化対策や理工系人材の不足解消も視野に収められており、大きな注目が集まっている。



社会的な変革が与える影響 高校新卒就職者に集まる期待

就職者等の内訳を細かく見ていこう。「都道府県別」では、卒業者に占める割合が最も高かったのは佐賀県で28.0%だった。以下、山口県27.3%、秋田県27.0%、長崎県25.9%、福島県25.7%と続いた。その反面、卒業者に占める割合が最も低かったのは東京都で、4.6%に過ぎなかった。以下、京都府6.4%、神奈川県6.5%、大阪府8.4%、奈良県9.7%と続いた。

こうした結果から、都市圏における大学の設置数の多寡と就職者の割合には、一定の相関関係があることが読み取れそうだ。もちろん、一部例外的に、比較的大学設置数が多いのにも関わらず、就職者の割合がそれほど低くない地域もある。世界的な自動車メーカー・トヨタグループ発祥の地であり、自動車関連産業が盛んな愛知県や、関西経済圏と九州経済圏の中間に位置し、幅広い産業群を形成する広島県は好例だ。高校新規卒業者を採用し、自

社独自の技術を持つ一人の中堅技術者として長期的に育成するケースも珍しくないのだろう。

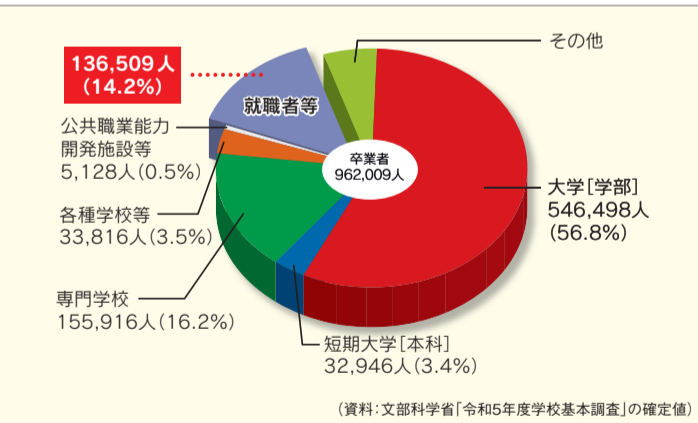
「男女別」就職者数では、男子が8万6,310人で、男子新卒者全体の48万7,228人中17.7%を占めたのに対し、女子は5万199人とどまり、女子新卒者全体の47万4,781人において10.6%を示した。男子が約3万6,000人ほど多く、女子の1.72倍となっている。

男女を合わせた「職業別」では、「生産工程従事者」が最も多く5万4,058人で、「サービス職業従事者」が1万7,544人、「専門的・技術的職業従事者」が1万702人と続いた。

地元志向が強いとされる高校新卒就職志望者が多く就職を果たすであろう地方経済圏の企業では、地域社会と密着した「製造業」や「建設業」の割合が高い。技術力や接客力を強みとして社員に継承すべく、長期的な活躍が期待できる高校新卒人材を求めているケースが少なくない。

4面に続く

■図1 高等学校新規卒業生の進路内訳(令和5年3月)



就職を目指す高校生のみなさんへ 最新刊 11月発行

進路のてびき 2024 キャリアデザイン準備号

就職・公務員編

準備編 就職する前に知っておこう!
実践編 「就職活動」に備えるために
公務員編 社会に奉仕する公務員への道

キャリアデザインブック

就職・公務員編

2024年 STEP 03 | キャリアデザイン準備号

就職活動の気になる疑問・不安を徹底解説!

就職活動支援センター

好評配布中

優良&堅実経営

業界&企業研究のための最新情報!!

就職活動の気になるギモンを徹底解消!!

就職情報 入手のための

「高校新卒者」を積極的に採用・育成している個別優良企業の紹介と共に、日本の産業社会のアウトラインも解説! 就職指導ご担当教員の方、必携の一冊です。



地域と共に醸成する進路・キャリア意識 希望進路の実現に生徒同士が相互協力

北海道弟子屈高等学校（北海道川上郡弟子屈町、加藤誠校長）は、「自強不息」の校訓のもと、「郷土を愛したくましく生きよう」「自ら学ぶ意欲を持ちつづけよう」という学校教育目標の実現に向けてさまざまな教育活動に取り組んでいる。進路指導部長の石田光師郎教諭にお話をうかがった。

●新型コロナ収束で観光業反転

豊かな自然環境に囲まれた弟子屈町に位置する北海道弟子屈高校は、地域の教育資源を活用した教育活動を通じて、地域の未来社会を創成する担い手である生徒の育成に注力している。そうした環境のもと大きく注目されているのが、地域と連携した進路指導だ。

進路指導部長の石田光師郎教諭は令和5年度の就職状況について、例年とはやや異なる状況が見えると語る。男子では、土木・建設関係に就職する生徒が多く、女子は接客・事務・観光に就職する生徒が多い状況にあるのだという。「特に観光については、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）がほぼ収束状態となって就職先として視野に入れる生徒が増えた

印象を受けます」。弟子屈町自体が観光に力を入れていることもあって、生徒の就職先に色濃く現れているのではないかと分析する。また、1年次から将来の夢を持っている生徒の多くは両親の影響が少なからずありそうだという、そうではない生徒たちは、求人票を見て決める傾向にあるようだというのが石田光師郎教諭の今年度の総括だ。

近年は、高校を卒業して就職するにしても、地元にとどまることができる企業を希望する生徒が増えてきているとも明かした。

●地域の大人とふれる機会を創出

キャリア教育の一環として、1年次から積極的に「進学相談会」や「就職体験会」参加を促している。狙いは外部と接触することに

あり、その体験を通すことで、進路・キャリア意識を高めていく。他方、探究活動の推進や職業観の醸成を念頭に置いた説明会開催などにも余念がない。いずれも地域の大人と接する機会を持つのがポイントだ。

探究活動では、地域で自然環境を舞台に仕事をしている社会人やツアーガイドなどにふれる活動に取り組む。職業観説明会では、さまざまな職業の地域住民との意見交流を図る。一方通行的な講演という形ではなく、膝を交えながら近い距離で話を聞く座談会形式を採用しているのが特徴だ。

2年次は、職場実習という形で地場産業を担う企業と連携を図る取り組みを実施。令和5年度は「仕事人図鑑」という、仕事内容はもちろん、仕事をしている人に密着して、どのような思いで仕事をしているのか、地域の企業が抱える課題とその解決方法に関する話を聞き、それをまとめる

活動を推進した。

1・2年次の活動を通して、「仕事」とはどのようなものなのか、表面のサラッとした考えからより深みを持たせると同時に、進路や未来について考えなければならぬという意識向上へと導いているという。このように、1年次からの積み上げにより、3年次に進級する頃には、地域を通して大人と交流する気持ちや意識がひく自然に芽生え、社会とのつながりを抵抗感なく認識・受容できる環境を段階的に形成している。

3年次には、地域住民が学校を訪れ、放課後などに面接指導を行って欲しいという。また、卒業式後は「合格体験発表会」を実施。これは、卒業生から在校生に向けてどのような進路活動を行ったのか、どのように自己実現を達成したのかなどを伝える趣旨の行事だ。先輩のサクセスストーリーにふれ、後輩在校生にとっても自分のこととして実感でき刺激を受けられる良い機会につながっている。

●デジタル機器を積極的に活用

進路指導の特徴の一つとして、デジタル機器の活用



進路指導部長
石田 光師郎 教諭

と共に生徒同士間での進路実現のサポートにも注目したい。

生徒はタブレットを活用して志望理由の文章をクラウド上に提出し、それを教員側で添削を行う。また、生徒が面接官役を担い生徒同士で面接練習を行い、面接の様子をタブレットに録画する取り組みも実施している。やはりクラウド上にアップロードし、教員側からもフィードバックができる体制も構築している。就職と進学を受験時期は異なるため、そのズレを最大限活用して進学希望者が就職志望者の面接練習を手伝うことも少なくない。

地域とのつながりを基盤に、生徒同士でもお互いの進路に関心を持ち、相互に知るところを促す手厚い進路指導の実践によって、生徒一人ひとりが豊かな進路を実現していくことを可能にしている。



北海道労働局

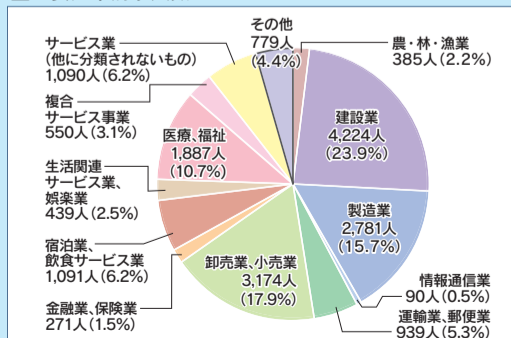
高校新卒予定者の就職内定率 68.2% 求人数は増加、求職者数は減少基調

●全道の就職環境は回復基調

厚生労働省北海道労働局は12月1日、「令和6年3月新規高等学校卒業生の職業紹介状況（10月末現在）」を公表した。

発表によれば、道内の高校を令和6年3月に卒業予定で、かつ就職を希望する「求職者数」は、前年同月から289人減少の5,007人（前年同期比5.5%減）だった。内訳は男子2,843人（同2.5%減）、女子2,164人（同9.1%減）だった。

■主要産業別求人数



*構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とはならない
資料：厚生労働省 北海道労働局「令和6年3月新規高等学校卒業生の職業紹介状況（10月末現在）」

そのうち、「就職内定者数」は3,414人（同5.0%減）。「就職内定率」は68.2%（同0.3%上昇）で、「求人倍率」は3.54倍（同0.32%上昇）を記録した。「求人数」に関しては657人増加の1万7,700人（同3.9%増）だった。

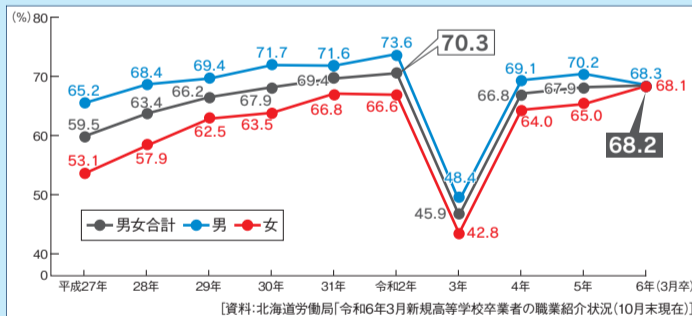
求人数は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の抑制を背景とする社会経済活動の再開に伴い、増加傾向にあることがうかがえる。また、就職内定率も着実に回復しており、COVID-19の感染拡大以前の最も就職内定率が高かった令和2年3月の新規高等学校卒業生における70.3%に迫りつつある。一方、求職者数

および就職内定者数は減少している。これは、若者人口全体の減少や道内で就職する人が減り、本州などに進出したり、道内外を問わず高まる進学志向などとも無関係ではなさそうだ。

●地域で明暗の就職内定率

道内を地域別に見ていこう。求職者数は全道20地域のうち13地域で前年同月を下回っていた。また、求人数の規模が前年同月より大きい順に眺めると、「紋別」が26.7%増の109人、「小樽」が21.1%増の522人、「岩見沢」が15.7%増の398人、「千歳」が9.5%増の631人、「札幌」が7.6%増の6,592人と続くなど、12地域で上回る結果となった。なお、求人倍率は、「稚内」が7.28倍、「札幌」が6.28倍、「浦河」4.29倍など、この3地域のみが全道平均3.54倍を上回っており、他の地域を

■就職内定率の推移



大きく引き離していた。

●最多求人数は「建設業」から

「主要産業別」はどうか。求人数を確認すると、「建設業」が4,224人と最も多く、これに「卸売業・小売業」3,174人が続いた。就職内定者数では、「製造業」の603人が最も多く、以下「卸売業・小売業」488人、「建設業」437人と続いた。

次に、「主要職業別」の求人数を見てみると、「生産工程」3,903人が最も多く、「サービス」3,310人と続いた。就職内定者数で最も多かったのは、「生産工程」で646人だった。以下、「事務」557人、「専門・技術・管理」406人と続いた。その反面、最も少

なかったのは「建設・採掘・運搬」の205人だった。

就職内定率が最も高かったのは「苫小牧」で86.1%。以下、「稚内」82.5%、「留萌」81.1%と続いた。留萌に関しては、前年同月比19.4%増加と増加率が最も高かった。

社会経済活動の再開により、今後は多くの人材供給が見込まれている。また、職業体験・インターンシップ受け入れを再開する企業が増加することで、さらに就職に対する高校生の意識の醸成機会創出が期待されている。動き出した社会経済に伴い、高校新卒者に対する需要はますます広がりを見せ、売り手市場が続くことが予想される。



Event Report 就職情報交換会

就職情報交換会に高まる期待 高校・企業双方にメリット

進路情報研究センター・ライセンスアカデミー(本社・新宿区)は、高校現場と企業をつなぐ「高卒就職情報交換会」を全国各地で開催している。本稿では、11月22日に実施された盛岡会場の様子と共に、岩手県における最新就職状況を詳報する。

●高校現場と企業をつなぐ場

進路情報研究センター・ライセンスアカデミー仙台支社(仙台市)は11月22日、アイーナ・いわて県民情報交流センター(盛岡市)において「高卒就職情報交換会」を開催した。

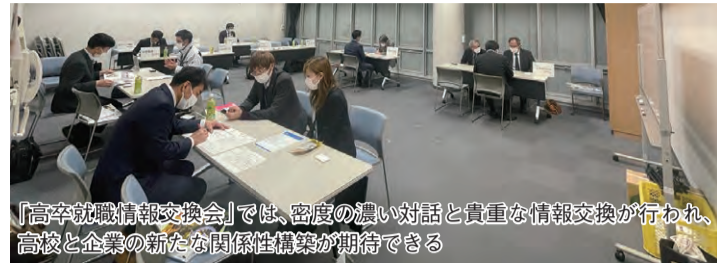
当日は、岩手県滝沢市に校舎を構える岩手県立盛岡農業高等学校のほか、盛岡市の江南義塾盛岡高等学校、盛岡誠桜高等学校、盛岡大学附属高等学校の3校と、製造・販売業やサービ

ス業など、多岐にわたる企業7社が参加した。情報交換会では、企業が各高校のブースを回る形式の個別面談が実施された。熱気を象徴するかのように約3時間半もの長丁場になったものの、活気あふれる様子が見受けられた。

企業が「高校訪問」をして、高校や進路指導担当教員とより良い関係の構築を図ると同様に、高校側も卒業就職者の動向の把握をはじめ、企業側の採用動向

に関する情報を入手するために「企業訪問」を行うことが少なくない。その意味では、個別面談の機会が確実に用意されている高卒就職情報交換会に参加するメリットには考える以上に大きなものがある。「高校教員と直接情報を交換することができる場はとても貴重」という趣旨の声が企業側から相次ぎ、満足度の高さをうかがわせた。

急速に進む少子高齢化による若手人材の不足は、今後ますます深刻化していくことが現実視されており、潜在的な成長力を持ち、将来的に自社の即戦力として



「高卒就職情報交換会」では、密度の濃い対話と貴重な情報交換が行われ、高校と企業の新たな関係性構築が期待できる

はもちろん、会社を牽引できる有為な人材候補として高校新卒者に対する期待が高まっている。高校と企業が対面で接点を持ちつつ、つながりの強化が展望できる就職情報交換会に対して、今後ますます熱い視線が集まるに違いない。

●県外就職も新たな選択肢に

岩手労働局が12月1日に公表した「令和6年3月新規高等学校卒業予定者の職業紹介状況—令和5年10月末日現在—」によ

れば、岩手県における令和6年3月新規高等学校卒業予定者に関する就職内定率は84.6%(前年同期比3.5%低下)だった。

そのうち、県内就職内定者割合は70.0%(同2.6%低下)、県外は30.0%(同2.6%上昇)だったといい、岩手県では県外就職に目を向ける高校生が決して少なくないことが分かるだろう。ラ社では、今後も高校生の進路選択をサポートするイベントを開催し、最新の情報を発信していく。



「信用」を積み重ね地域社会に幅広く貢献 上司を巻き込む目標設定と絶対評価で成長

石油製品・LPガス・住設機器販売の専門会社として人々の暮らしを支えている株式会社アベキ(本社・仙台市、阿部雅浩代表取締役社長)。東北全域から北関東に至るまで、幅広くサービスを提供する事業内容や手厚い人材育成システムを紹介する。

●日常生活を支える事業

大正2年の創業以来、1世紀以上にわたって地域社会の人々の健康と快適な生活の実現に貢献してきたのが株式会社アベキだ。同社では、「石油製品販売」「カーライフ」「LPガス」などを軸に、多様な事業を展開している。

石油製品販売事業では自動車・船舶などへの燃料供給や潤滑油の販売、カーライフ事業では洗車や整備作業のほか、車検や自動車販売、レンタカーサービスまで、顧客のカーライフ全般を支える。また、LP事業では一般家庭、医療機関や学校などに向けたLPガス

の供給を行っている。

これら基幹事業を営むかわら、自動車関連の保険を扱う「保険事業」、食品を販売する「そうめん販売」や「お茶販売」、そして「不動産賃貸事業」なども意欲的に展開。長い歴史の中で築いてきた幅広いネットワークを活かし、充実のサービスを提供している。

アベキ社で採用を担当する矢木澤豊氏は、これらの事業内容について「当たり前の日常を陰ながら支える仕事」と表現する。日常生活はもちろん、例えば災害時においても当たり前のことが当たり前のようにできる環境を整えるために、業

務に取り組むのだという。

同社の特徴の一つに、顧客からの「信用」を第一に掲げて業務に取り組む姿勢を挙げることができるだろう。「信用を積み、地域社会に貢献せよ。」との社長訓に示されている通り、接客や営業活動を通じて一人ひとりの顧客とていねいに接していき、それを積み重ねることで地域社会に貢献するということが社員全員が共有している。同社が扱うのは、生活に必要不可欠なものだからこそ競合他社も多く、顧客に「選んでもらえる存在になる」という意識が強いようだ。

●個人の努力・成長を評価

社員が長く活躍することができるよう、人材育成にも余念がない。入社後、最

初に実施する「新人研修」では、社内外の人々との挨拶や身だしなみ等のビジネスマナーを学ぶと共に、「なぜ働くのか」を考える機会を設けている。そうした理解を深めることで、仕事を自分のこととして捉えて誠実に取り組むようになるといい、仕事上の信用を培う方法を吸収していく。

各事業・店舗に配属後は、手厚い評価制度を軸に新人育成が行われる。同社が導入する評価制度は、相対評価ではなく、個人の努力・成長を絶対評価するもの。一人ひとりが成果目標と行動目標を4カ月ごとに設定し、目標に向けた具体的な行動や持続力、そして成果を評価していく。

目標設定では、各自の頑張りたいことはもちろん、チームとして求められていることなども踏まえて上司と相談を重ねて決定する。その後、2カ月ごとに実施される上司との中間面談に



採用担当 矢木澤豊氏

において進捗状況を確認しつつフィードバックを行うため、必然的に上司を巻き込む形で日常業務に取り組むようになるという。実際に、上司の徹底したフォローのもとで社員はモチベーションを維持しながら成長を重ねていくことができる環境にあるようだ。

矢木澤氏は、社員や若者に求める人物像として「信用をもらえる人」を挙げる。嘘をつかず誠実でいること、相手をよく見ること、さまざまな障害に対して前向きに捉えることなどが大切であると語った。顧客とのつながりを大切にする同社の魅力ある社風を垣間見た気がした。

若者のキャリア形成を応援する大学新聞社のスタートアップガイド

就職 仕事 資格 起業

つながる学校 2024 高校時代から考えるキャリアデザイン

「起業」という道 起業のための「学び」

- 高校探訪 起業家精神を醸成する学校
- これでわかった! 仕事と学びの関係
- 知っておきたい現代「仕事」事情

本誌は高校生がキャリアデザインを描き出す上で役立つ情報や将来の仕事・就職、スタートアップを考える際のヒントとなるトピック、テーマをさまざまな角度から提供しています。

大学新聞社

TEL 169-0073 東京都新宿区百人町2-17-24
TEL 03-5925-1668
URL https://daigakushinbun.com/

がんばれ! 2024 好評既刊 青森県の高校生

青森県の高校生のみなさんが「進路選択」や「就職」を考える時に役立つ情報が満載!! 就職までのスケジュールや面接・小論文・作文試験対策など、「間違いない進路選択」の実現をサポートします。

巻頭特集 先輩たちが語る! 進学・就職成功体験談

最新 高校生を全力で応援 企業インフォメーション

特別収録 求人票 会社見学 チェックシート

進路情報研究センター ライセンスアカデミー

TEL 169-0073 東京都新宿区百人町2-17-24
TEL 03-5925-1656
URL https://licenseacademy.jp/

医療法人社団 平成会

自らが受けたいと思う医療と福祉の創造

●基幹事業 介護老人保健施設事業、居宅介護サービス事業
●設立 1994年(平成6年)
●資本金 78,000,000円
●従業員数 826人

会社の強み・社風

医療福祉事業は、人の生命に携わる領域であると共に、お客様一人ひとりの生活に奉仕する仕事です。私たちは「自ら受けたいと思う医療と福祉の創造」を理念に、お客様一人ひとりの心に寄り添うケアをお届けしています。また、ご家族、ご本人、職員それぞれの想いを大切にしています。

〒969-6254 福島県大沼郡津美里町荻窪字上野185
TEL 0242-54-2300
URL https://www.heiseikai-group.com/

高校新卒者に
集まる期待!

大都市圏で異次元の求人倍率、「応募ゼロ」の事態も

1面より

就職を志望する高校生にとって、進学者に比べてひと足早く社会に出て経験を積むことができる点は大きなアドバンテージであり、10代のうちから現場経験を積んで得た技術は会社の成長を大きく支える。その意味で、経験を武器に長期的に働くことができる「生産工程従事者」や「専門的・技術的職業従事者」に注目が集まっていると考えることができそうだ。

職業別の割合をさらに「男女別」で見ると、男子では、体力や行動力などが重視される傾向にある「生産工程従事者」と「専門的・技術的職業従事者」が多く、女子においては、伝統的かつ圧倒的に人気を集める「事務従事者」や「サービス職業従事者」の割合が高かった。その意味では、従来のイメージから大きくかけ離れる状況ではないと言えるだろう。しかしながら、昨今では、若手人材不足や労働力不足を補いつつ、かつ生産性向上を図るために「AI」「IT」「デジタル」の導入を進める動きが業界や企業規模を問わず急だ。こうした社会的——というよりも、むしろ全世界的な潮流は今後ますます加速度的になることが確実視されており、その局面で求められる人材像を描き出すのはなかなか容易ではない。いずれにしろ、社会的な変革や動向に対する留意は欠かせなくなるだろう。

求人倍率は過去最高水準 企業とのミスマッチを防ぐ

厚生労働省が11月17日に公表した「令和5年度『高校・中学新卒者のハローワーク求人に係る求人・求職・就職内定状況』取りまとめ(9月末現在)」では、減少する求職者数に対して

求人数は増加傾向にあることが鮮明になった。

第一に、「求人倍率」に着目してみよう。求人数46万5,162人に対し、求職者数は12万2,822人で、「求人倍率」は前年から0.50倍上昇した3.79倍、就職志望生徒一人に対して3.79人分の求人があったことになる。この求人倍率は、日本が空前の好景気であったとされる「バブル経済期(昭和61年～平成3年頃)」を背景にした「3.34倍」を超えており、過去最高の水準となっている。

都道府県別の状況を見ても、最も高い東京都は12.54倍(前年同期比2.70倍増)、続く大阪府は7.55倍(同1.57倍増)、広島県4.65倍(同0.76倍増)と倍率が上昇しているほか、大多数において求人倍率は前年を上回る数値となり、まさに“超・売り手市場”の様相を呈している。これほど極端に売り手が優位な状況が持続する状況にあっては、仮に、強い採用意欲を持ち合わせていても、高校新卒就職志望者の「応募ゼロ」という、なんとしても避けたい状況も現実味を帯びてくる。それというの、高校新卒就職志望者の動き方は就職慣行によっておおむね一様で、生徒個人や個別高校によって大きく異なることがないからだ。

7月1日に就職活動が解禁となるものの、7月初旬、生徒は期末考査で動けない。校内に限っても「求人票閲覧」や「企業の比較・検討」、あるいは「見学希望提出」くらいは進めることが不可能ではないが、実質的には7月半ば～下旬にかけて企業に対して見学申込みを行うことが初手となるイメージだ。従って、夏季休暇中の生徒は、意中企業の職場を見学し、その流れの中で「履歴書作成」や「調査書申請」を経て、面

接や作文等の試験準備に注力することとなり、志望企業1社のみが目向けられる。すでに見たように、求職者は12万人強であるから、358万9,333社(中小企業庁データ、平成26年6月)あるとされる日本の企業のうち、そのほとんどが、高校新卒人材を採用することがかなわない構図ができ上がっている。

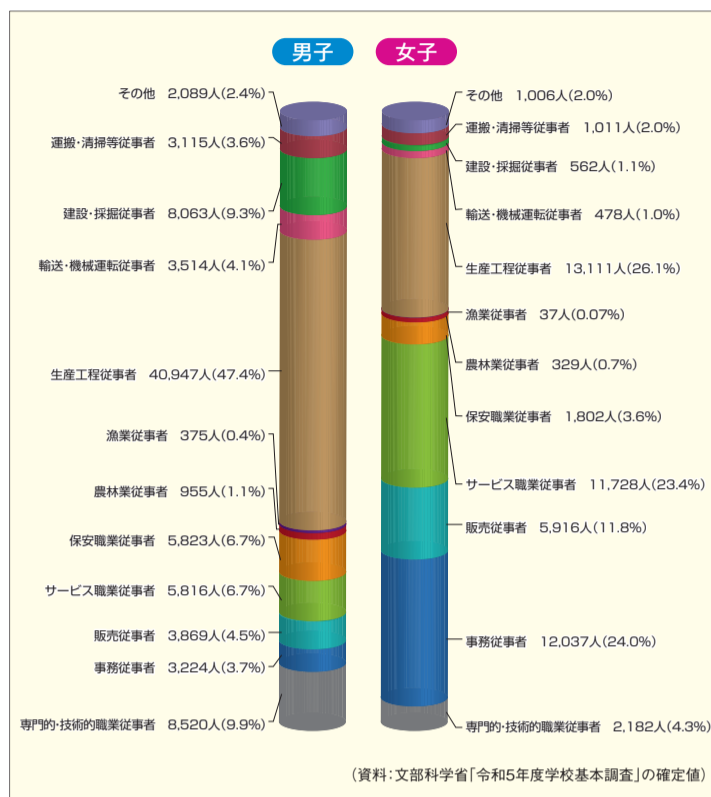
動き出しは2年次から 就業へのイメージを持つ

このような状況下において、生徒が自らの志向性やキャリアデザインなどに基づいて、自分が輝くことのできる“間違いのない確かな就職”を実現するためには、「業界研究」「企業研究」「職種研究」をバランスよく行う必要がある。特に3年次になると、履歴書の準備や面接練習などに多くの時間を割かなければならないが、多数の企業を比較・検討していくための材料となるさまざまな情報を十分に得られていなかったり、職場見学に参加できる時間が不足してしまったり、あるいは全く見学すらできなくなったりする高校生が一定数いるとの指摘があることには留意すべきだ。

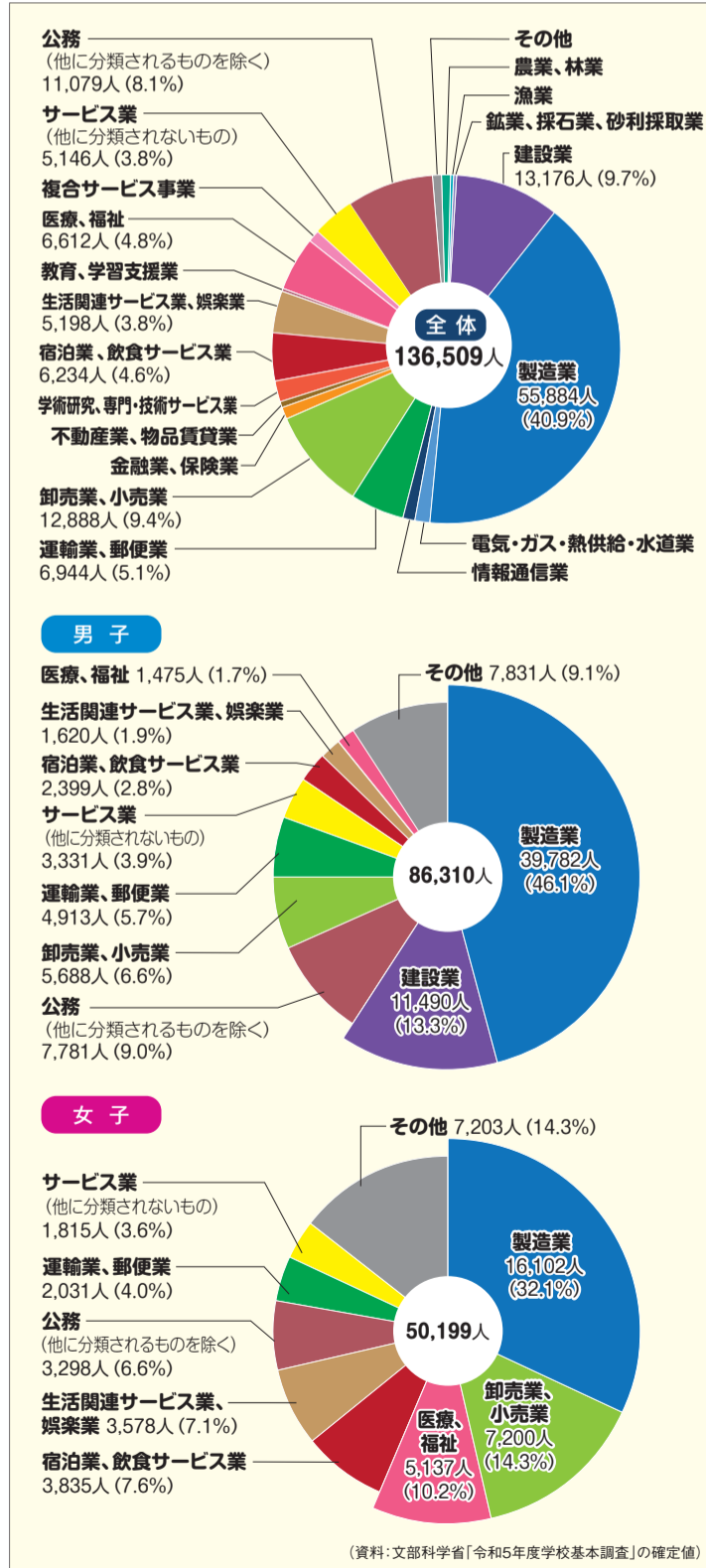
こうした「準備不足」を防ぐため、1・2年次のうちから「働くこと」「自分の興味・関心」「将来やりたいこと」などを考えたり、多様な職種への理解を深めたりしておく必要があるだろう。その手段として有効的なのが、主に2年次の冬に開催される「就職情報交換会」や「就職説明会」、「業界研究会」だ。これらのキャリア系イベントでは、就業へのイメージをより具体化させると共に、多様な業界・職種・企業への理解を深めることができるさまざまなプログラムやメニューが用意されていることが少なくない。早期から就職への意識を高めることで、生徒自身の意欲的・主体的な取り組みを促進させ、就職に向けた十分な準備を実現することができるだろう。

企業や職種、さらに自分への理解を深めることは進路の可能性を広げることにつながる。十分な時間をかけて準備を行い、将来を見据えて最善の選択ができるようにしよう。

■図2 高等学校新規卒業者の職業別就職者数内訳(令和5年3月)



■図3 高等学校卒業者の主な産業別就職者の比率



2年次のうちからキャリア系イベントに積極的に参加することで、求人票だけでは読み取れない企業や職種の魅力に充分にふれることができるだろう

関東・首都圏 和牛甲子園最優秀賞 生徒の可能性を引き出す

栃木県立矢板高等学校 地場産業の特色を十分に活かす 生徒に親身に寄り添う進路指導

教育活動全般の拠り所として「真理」を校訓に掲げ、専門性を追求する構えを崩さない栃木県立矢板高等学校（栃木県矢板市、今泉光由校長）。人間にとって不可欠な食料の生産を学ぶ農業経営科の取り組みについて、嵯峨俊介教諭にお話をうかがった。

●地域と連携した取り組み

栃木県立矢板高校の開校は明治43年。令和2年に創立110周年を迎えた歴史ある伝統校だ。現在は、「農業経営」「機械」「電子」「栄養食物」「介護福祉」の5学科を構えている。

「農業経営科」では「作物」「野菜」「草花」「果樹」「畜産」の5専攻に分かれ、人間にとって必要不可欠な食料の生産を学んでいく。

果樹専攻では、りんごの生産が盛んな矢板市の特色を活かし、例えば、「落下りんご」などの規格外品を活用したヨーグルト飲料などの商品開発を行っているという。地元企業と協働して製造に取り組み、完成品



農業経営科の生徒自らが手塩にかけて育てた「矢高放牧和牛」

を生徒自らが地域即売会などで販売する。

畜産専攻では、本年1月に開催された全国農業協同組合連合会（本部東京都・千代田区）が主催する「第6回和牛甲子園」において、畜産専攻生8人が育てた肥育牛が「枝肉評価部門」で最優秀賞を受賞した。和牛甲子園とは、全国の農業高校の生徒を集めて和牛飼育体験発表会を開催することで、農業の後継者・担い手育成の促進を目的とするイベントのことだ。

嵯峨教諭は、矢板高校の放牧牛が矢板市のふるさと納税返礼品として決定したことを受けて、『矢高放牧和牛』として商標登録を行うことも視野に入れていきます。農業分野は権利について浸透していない部分が多く、権利問題などについても授業の中で可能な限り取り上げるようにしています」と、明かす。

●生徒目線の進路指導

矢板高校では、就職を志す生徒向けに、企業の人事・採用担当者などを招いて講演を行ったり、外部講師によるキャリア教育を行ったりと、社会と関わる場を積極的に設けている。実際に活躍中の社会人や世界にふれることで生徒の視野を広げていく狙いがある。

また、進学を希望する生徒に対してはオープンキャンパスに同行し、教諭自らが目で見て確かめるなどのサポートを行うことで、生徒の目線に立ったキメ細かな進路指導を意識しているという。嵯峨教諭は、「私たち教員が良いと言う学校を安易に進学先に選ぶのではなく、ガイダンスなどに参加して得た情報をもとに自身で決めることが大切だと思います」と、考えを明かす。生徒に対する寄り添いがあってこそその指導によって、希望する進路の実現を目指す矢板高校。生徒がイキイキと学び、地域活性化につながる活動を推し進める構えだ。

桜林高等学校 卒業生の活躍を体感する「社会人トークカフェ」

●「働く」についてインタビュー

桜林高等学校（千葉市、石井航太郎校長）は、「自己確立・自他共栄」を校訓とし、他人を思いやる心と行動力、そして豊かな人間性の育成に注力する私立高校だ。少人数制のもと確かな実力を培う「特進コース」と、大学・専門学校への進学や就職を希望する生徒に対応したカリキュラムを展開する「総合コース」を擁し、生徒一人ひとりに寄り添ったキメ細かなサポートを行っている。

今春5月、1年次生を対象とするイベント「社会人トークカフェ」を実施した。これは、社会人として活躍している同校卒業生を招き、現在の業務内容や仕事のやりがいなどをインタビューするというもので、卒業生12人が参加した。社会人としての在り方や「働く」ということについて質問する1年次生に対し、体験談や助言を送った。

●3段階の進路指導

高校の在籍3年間を通して



卒業生からの貴重な話と真摯なアドバイスを熱心に耳を傾ける

たユニークな進路指導行事にも注目したい。1年次生は、働くことを見詰め直すグループワーク「はたらくことの意義」に取り組んでいる。これは、生徒同士で働くことに対する考え方や意見をたたかわせるもので、将来を展望し、進路についてより具体的なイメージを抱かせるという狙いがある。2年次生は、進路設計をテーマとする各種「進路適性調査」、3年次生は進路とSDGsのつながりについて考える課題が設けられるなど、将来を見据える力を着実に養うことに傾注する。

人生を展望・設計し、実現へとステップアップする教育を目指す桜林高校。今後も生徒の持つ可能性を最大限に引き出すための進路指導に努めていく。

株式会社丸和運輸機関

丸和の強みは「一体感」

- 基幹事業 3PL事業、EC事業(ネット通販)、食品物流事業(スーパーマーケット)、運輸・宅配事業
- 設立 1973年(昭和48年)
- 資本金 3億5,000万円
- 従業員数 11,380人

創業以来半世紀以上 過去最高益を更新しており、安定性は抜群です！成長の極限は生活に密着した【ネット通販・食品・医薬品・生活用品】を取り扱い、モノを運ぶだけでなく、運ぶ【効率的な仕組みを創る】仕事を展開して、教育制度も充実しており、という方も安心して働けます。

〒342-0008 埼玉県吉川市旭7-1
TEL 048-991-0600
URL https://www.momotaro.co.jp/

株式会社千葉パワーテクノ

明日の電力設備を作り、守る

- 基幹事業 電柱(東京電力設備)の電気工事
- 設立 2017年(平成29年)
- 資本金 50,000,000円
- 従業員数 165人

当社の経営理念に掲げられている「社会インフラ作りを通して、地域社会に貢献する」ことが私たちの安定供給のために、仕事であり、使命です。当社の従業員はプライドと自信を持って「電気」働いています。

〒260-0021 千葉市中央区新宿2-24 関電ビル6F
TEL 043-307-7331
URL https://www.chiba-pt.com

出光ユニテック株式会社

パッケージの「もと」が製品です

- 基幹事業 合成樹脂(プラスチック)加工製品の開発、製造および販売
- 設立 2000年(平成12年)
- 資本金 26億円[出光興産(株)100%]
- 従業員数 451人

スーパーやコンビニ エンスストアに並ぶさまざまな商品のパッケージのもととなる「素材」が我々の製品です。グミキャンディーの袋などに使用されるジッパーは国内1位の販売シェアを有します(株式会社日本経済総合研究センター発行「包装資材シェア辞典2022年版」より)。

〒108-0014 東京都港区芝4-2-3 NMF芝ビル6F
TEL 03-6865-8840
URL https://www.idemitsu.com/iut/

太陽鉱油株式会社

人と人の想いを未来へつなぎます

- 基幹事業 エネルギー販売
- 設立 1971年(昭和46年)
- 資本金 44,000,000円
- 従業員数 900人

当社は物流を支える運送会社に向けた軽油販売をメインに、東日本エリアで直営61店舗のネットワークを有し、成長する喜びを感じます。充実した社内教育制度で社員をサポートします。ポートしますので、成長する喜びを感じられるキャリアアップが描けます。

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町3-8-1 TT2ビルディング6F
TEL 03-5641-5215
URL https://www.taiyou-koyu.co.jp/

東鉄工業株式会社

鉄道工事で人々の暮らしを支える

- 基幹事業 線路・土木・建築・環境等の各事業
- 設立 1943年(昭和18年)
- 資本金 28億1,000万円
- 従業員数 1,883人

当社は、鉄道関連工事を得意とする総合建設業の会社です。人々の暮らしを支える「鉄道」の設備メンテナンスに、専門的技術力と安定した受注の強みを活かして、社会基盤の創造に貢献できる会社です。

〒160-8589 東京都新宿区信濃町34 JR信濃町ビル4F
TEL 03-5369-7650
URL https://www.totetsu.co.jp

仕事から見つける 好評既刊 学校資料請求本 2024

気になる10テーマ お仕事探検隊

- 医療関連
- 編集・出版関連
- ファッション関連
- 理容・美容関連
- 飲食・調理・製菓・製パン関連
- コンピュータ関連
- トラベル・航空関連
- 音楽・音楽ビジネス関連
- 動物関連

なりたい自分 & 就きたい仕事を 視点にした確かな進路先選び

徹底紹介 全24業種 200職種

お問い合わせ ライセンスアカデミー
〒169-0073 東京都新宿区百人町2-17-24
TEL 03-5925-1656

新潟県の高校生のための 進路応援BOOK 2024

好評既刊

新潟県の高校生のみなさんが「進路選択」や「就職」を考える時に役立つ情報が満載!! 就職までのスケジュールやお悩み相談Q&Aなど、「間違いない進路選択」の実現をサポートします。

特集 グラフと数字でみる進学と就職 新潟県の高校生の進路事情

就職 進路決定までの流れ 就職活動のフローチャート

最新 新潟県の高校生を応援する 企業インフォメーション

お問い合わせ ライセンスアカデミー
〒169-0073 東京都新宿区百人町2-17-24
TEL 03-5925-1656

株式会社東横イン電建

全国を旅して「一緒にホテルをつくらう！」

- 基幹事業 建設業(電気工事、配管工事)
- 設立 1990年(平成2年)
- 資本金 1億円
- 従業員数 140人

当社は全国に展開するビジネスホテル「東横INN」のみを専門に建設する会社です。景気が左右されることなく、安定して長く働ける会社です。建設業ですが、携わる仕事は設備工事のため危険な作業はありません。常に「ホテルづくり」を研究し続け、誰が作業しても同一施工、同一品質が可能な施工システムとノウハウがあります。

TEL144-0054 東京都大田区新蒲田1-7-4 聖徳ビル2F
TEL 03-5480-1045
URL http://www.toyoko-inn-denken.com

物産ロジスティクスソリューションズ株式会社

人でつながる物流企業

- 基幹事業 物流業(生産から消費までの物流を一元管理【運輸・倉庫】)
- 設立 1987年(昭和62年)
- 資本金 60,000,000円
- 従業員数 1,545人

国内大手のコンビニチェーンの物流を生産から店舗まで担っている当社。外に出れば、あたりまえに目にする、全支店を支えています。いつでも欲しいものが買える「届ける」という物流の「誰かのあたりまえ」の仕事でみなさまの生活を、作ります。

〒105-0003 東京都港区西新橋1-1-1 日比谷フォートタワー
TEL 03-6775-7414
URL https://www.blsc.biz/

デノラ・ペルメレック株式会社

電気化学で地球環境に貢献!

- 基幹事業 電極事業、電解槽・環境水処理事業
- 設立 1969年(昭和44年)
- 資本金 90,000,000円
- 従業員数 300人

当社は不溶性金属電極の事業化を目的に、三井物産、三井造船、イタリアのデノラ社の出資により設立されました。以来、化学を生業とする産省エネルギー化に貢献し、電解システムに貢献しています。

〒252-0816 神奈川県藤沢市藤原2023-15
TEL 0466-87-8831
URL https://japan.denora.com/ja/

News & Topics



内定率 就職内定率77.2%、コロナ禍前の水準に —— 文部科学省

文部科学省は令和5年12月15日、「令和6年3月高等学校卒業予定者の就職内定状況（令和5年10月末現在）」を発表した。調査対象は、国・公・私立の高等学校および中等教育学校（全日制・定時制）だ。

調査結果によれば、卒業予定者は92万9,568人で前年同月比4万2,748人減少、就職希望者は12万9,301人（前年同月比8,900人減）だった。

このうち、10月末現在の就職内定者は9万9,768人（前年同月比5,411人減）、就職内定率は77.2%（前年同月比1.1%増）で、新型コロナウイルス感染症感染拡大前の令和元年時点と同様の水準となった。感染症法上の分類が5類に移行し、新型コロナウイルス禍が収束していく中で幅広い業界・業種で採用意欲が高まったことがうかがえる。

「男女別」では、男子が77.8%（前年同月比0.8%増）、女子が76.0%（前年同月比1.4%増）となり、やや男子が上回った。

「学科別」で見ると、「工業」が88.4%と最も多く、以下「看護」88.1%、「商業」82.8%、「水産」80.7%と続いた。技術系や難関資格直結系の実学分野は例年通り高く、「普通」は64.1%にとどまっている。

「都道府県別」で就職内定率が高かったのは「愛知県」89.1%、「富山県」87.9%、「三重県」87.0%となっており、低い県は「沖縄県」49.1%、「北海道」60.4%、「高知県」62.9%だった。今後は、令和5年12月末現在の高校生の就職内定状況を調査し、その状況を注視しながら、必要に応じて厚生労働省と連携した就職支援を行っていくという。

就業体験 インターンシップの実施率が急上昇 —— 国立教育政策研究所

国立教育政策研究所（本部東京・千代田区）はこのほど、「令和4年度職場体験・インターンシップ実施状況等結果（概要）」を公表した。

これは、令和4年度の全国の公立中学校および国・

	実施率	対前年比
国立	14.3% (4.8%)	9.5% [※] 上昇
公立	65.2% (52.3%)	12.9% [※] 上昇
私立	33.2% (5.4%)	27.8% [※] 上昇

* ()は令和3年度の実績
資料：国立教育政策研究所「令和4年度職場体験・インターンシップ実施状況等結果（概要）」

公・私立の高等学校（全日制・定時制・通信制）を対象に、職場体験やインターンシップの全国的な実施状況を取りまとめたもの。取りまとめによれば、高校におけるインターンシップは国立高校で21校中3校が実施し、実施率は14.3%（対前年比9.5%上昇）だった。同様に公立高校は4,025校中2,623校が実施し、実施率は65.2%（同12.9%上昇）。そして私立高校は1,513校中502校

が実施し、実施率は33.2%（同27.8%上昇）だった。国・公・私立のすべての区分で前年よりも実施率が上昇しており、高校現場におけるインターンシップがより一層浸透していることが明らかになった。

また、公立高校（全日制・定時制）における「学年別」のインターンシップの実施率を見てみると、最も高かったのが「2年生」で63.3%。以下、「1年生」は25.6%、「3年生」は10.9%と続き、高校生活の中で比較的余裕のある2年生における実施率が高いことも分かった。

人手不足 深刻な「人手不足」に3割強が苦悩 —— 中小企業基盤整備機構

中小企業基盤整備機構（本部東京・港区）は令和5年12月21日、「中小企業・小規模企業者の人手不足への取組状況に関する調査（2023年）」の結果を公表した。発表によると、回答

者のうち、人手不足の状況に対して「大変深刻、経営に支障が出ている状況」と答えたのが7.8%、「深刻、このままでは経営に支障が出る」が23.8%で、3割強が深刻と捉えていることが明らかになった。また、「深刻ではないが、重要な問題となっている」が37.6%、「将来的に問題となる可能性が高い」が25.8%と、6割強が重要または将来的な課題として認識しているのが現状だ。

業種別に「大変深刻」と

「深刻」を合わせた割合を見ると、「建設業」43%、「サービス業・飲食・宿泊」34%、「サービス業・その他」40%だった。これらの3業種・業態の人手不足の深刻度が高いとされている。

業務効率化や人材育成、職場環境の整備の各取り組みを行わない理由としては、コスト・ノウハウ・情報の不足が課題として挙げられた。人材育成に関しては「コスト」の課題が40%を占めるなど、深刻な割合が浮き彫りになっている。これらの課題の解決に向けては、公的支援機関や専門家による支援のニーズが高いとした。

企業調査 メンタルヘルスの取り組み状況を調査 —— 公益財団法人日本生産性本部

公益財団法人日本生産性本部（本部東京・千代田区）のメンタル・ヘルス研究所は令和5年11月9日、「第11回『メンタルヘルスの取り組み』に関する企業アンケート調査結果」を公表した。同調査は、メンタルヘルスを働く基盤と位置づけ、実態を調査し結果を周知することで、各事業者がさらなる積極的な取り組みを進める一助とすることを目的としている。調査期間は令和5年7月7日～9月4日。新興市場を除く上

場企業（東証、札証、名証、福証）のうち、案内の了解を得ている企業2,847社（人事担当）が調査対象で、そのうち169社から有効回答を得た。

「心の病」が最も多い年齢層について、「10～20代」との回答が43.9%で、令和3年に実施した前回調査の29.0%から急増。過去最多の結果となり、「30代」（26.8%）を初めて上回った。

この理由として、同本部は一概には言えないと前置

きした上で、新型コロナ禍の時期に入社した若手層がテレワーク等で対人関係や仕事のスキルを十分に積み上げることができない中で、感染症法上の5類への移行に伴う出社回帰への変化が大きなストレスになった可能性を言及している。

今回の調査を経て、新型コロナ禍を経て働く場所や働き方が見直される流れの中で、企業の人事・採用担当者から見た従業員のメンタルヘルスの現状と組織の状況などが明らかになると共に、ストレスチェック制度がポジティブな目的で活用されていることが明らかとなったと結んでいる。

事業として持続可能な形でどのように解決するかが問われる。

参加者は3人以上8人以内でチームを結成し、当日与えられた課題の解決策を12時間以内に英語で2ページの事業プランと3分のプレゼンテーション動画にまとめて提出する。最終的には、創造性・革新性、実現性、市場性、コミュニケーション能力などの点で総合的に評価・審査されるという。申し込みの締め切りは2月20日まで。世界大会は5月25日の予定だ。

競技大会 世界が抱える課題の解決に挑戦 —— アントレプレナーシップ開発センター

特定非営利活動法人アントレプレナーシップ開発センター（本部・京都市）は、「Global Enterprise Challenge (GEC)」の「国内予選」を来る3月24日に開催する予定だ。

これは、イノベーションに対する青少年の興味を喚起するために、高等専門学校生1～3年次を含む高校生を対象に実施している国際ビジネス競技のこと。

国内予選（GEC）、世界大会（GYEC）の二つのステージからなり、国内予選で最も優れた成果を残したチームが次のステージである世界大会に出場する権利を獲得できる仕組みだ。挑戦する課題（challenge）は環境、エネルギー、産業、災害対策、教育など、世界が共有する問題に関わるもの。競技では、その課題に対して科学技術を活用し、

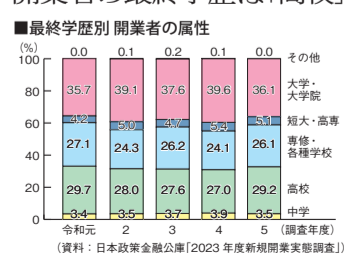
新規開業 女性開業者の割合24.8%で過去最高 —— 日本政策金融公庫

日本政策金融公庫（本店東京・千代田区）は11月30日、「2023年度新規開業実態調査」を発表した。これは同庫が新規開業企業の実態を把握するため、平成3年度から毎年実施している調査だ。今回は令和5年8月に実施し、同庫が令和4年4～9月に融資した企業のうち、融資時点で開業後1年以内の企業1,789社から回答を得た。

同調査結果によれば、開業者に占める女性の割合は24.8%と、同調査の開始以来最も高かった。また、開業者の最終学歴は「高校」

が29.2%で、「大学・大学院」の36.1%に次ぐ結果となった。同じく勤務キャリアについて、「勤務経験あり」と答えたのは回答全体の98.1%で、開業者のほとんどが勤務経験を持っていることが分かった。なお、開業時の平均年齢は43.7歳で、令和2年度、令和3年度と並んで過去最高となった。

開業時の平均従業員数については2.8人で、同調査の開始以来初めて3人を下回った。現在の売り上げ状況について「増加傾向」と回答した割合は全体の58.6%で、令和3年度の44.4%、令和4年度の52.4%と比べると高くなっていた。過去の調査結果と比較すると、現在はより開業しやすい社会環境にあると言えそうだ。



東海・北陸 キャリア教育モデル校 地元企業との連携・協働

愛知県立
城北つばさ
高等学校
(昼間定時制課程)

社会で働くイメージを描かせる進路行事 人生を豊かにする「選択」を意識する

愛知県立城北つばさ高等学校(名古屋市、鈴木孝文校長)は、集団の中で仲間と共に学びながら切磋琢磨することを通して、将来の職業や生活に夢と希望を持つ人材の育成を目指している。進路指導主事(昼間定時制課程)の鈴木洋平教諭を訪ね、キャリア教育についてお話をうかがった。

●生徒の夢を実現するために

本校は、単位制による定時制高校として平成29年に開校しました。現在は、昼間定時制課程の「総合学科」「普通科」、夜間定時制課程の「ものづくり科」を設置して、さまざまな教育活動を展開しています。

定時制課程の生徒は、一日4時間の授業を受けて、4年間かけて卒業することが一般的です。本校昼間定



時制課程の生徒も、午前中に4時間の授業を受け、午後の時間は多くの生徒がアルバイトを行うなど、有効活用しています。

本校では、午前中の授業のほかに午後の授業を選択することで、合計74以上の単位を修得して3年間で卒業することもできます。午後の授業は、生徒自身の興味関心や将来の目標などに合わせて自由に選択することが可能です。

例えば、令和5年度については「国語入門」や「基礎数学」といった基本的な知識の定着を目指す科目のほか、「時事英語」や「職業理解」「服飾手芸」など

の実用的な科目も豊富にあります。

本校の生徒が持つ背景は多様であり、一人ひとりが設定した自分の目標に向かって毎日充実した高校生活を送っています。

●選ぶ力を身につける指導

キャリア教育の一環として進路指導部と愛知中小企業家同友会が共催する進路行事「城北企業展」を行っています。1・2年次の生徒を対象に、毎年11月に開催しています。

学校の所在地である名古屋市北区を中心に業務を展開している企業20社(愛知中小企業家同友会会員企業)のほか、愛知県北警察署や自衛隊愛知地方協力本部守山分駐所などから経営者や人事・採用担当者を本

校にお招きして、生徒が直接話を聞ける機会を設けています。

生徒には事前にアンケートを行い、どの企業・団体の話を聞きたいのか希望を取ります。一回30分間の時間を使って各々のブースで話を聞き、途中休憩を挟みながら3ブースを回ります。仕事内容を聞いたり、自分に向いている仕事を考えたりするためのヒントや動機づけが目的です。

高校卒業後に大学や専門学校に進学した場合でも、ほとんどの生徒が数年後には就職することになります。本校では、在籍中だけではなく卒業後の生徒のことも見据えて、進路指導のあり方を考えています。

生徒の様子を見てみると、一社だけではなく複数の企業を見て直接話を聞いて比較することができる意義が大きいように思います。また、本校は愛知県のキャリア教育モデル校に指

定されていることもあって、「学内職業体験」も実施しています。2年次の5月に2週間にわたって1時間ずつ行います。

就職という新たなステップに踏み出す勇気がなかなか出せない生徒の自己肯定感を上げたいという思いがあります。参加前後のアンケート結果を見てみると、働くことに対するイメージが前向きなものに変化している様子もうかがえます。「自分にもできる!」という気持ちが生徒に醸成されていくことを嬉しく思っています。

現在、社会は大きな転換期を迎えており、将来は予測もつかない状況になりつつあります。そうした中で、今後はより一層「選択すること」の重要性が増してくるでしょう。情報収集能力を身につけさせながら、生徒にとってより良い選択ができるような進路指導を心がけています。

三重県立
明野
高等学校

高企連携による商品開発と課題解決 明野高校式地域循環型農業の実践

三重県立明野高等学校(三重県伊勢市、東浦宏幸校長)の開校は明治12年。令和5年度で創立143年を迎えた歴史と伝統を誇る高校だ。進路指導主事を務める竹村保範教諭を訪ね、「高企連携」の取り組みについてお話をうかがった。

●地域に貢献する人材育成

「生産科学」「食品科学」「生活教養」「福祉」の4学科を設置する専門高校である明野高校は、知識や技能、社会人として必要な態度を身につけ、適切な職業観や勤労観をもって地域社会に



貢献できる生徒の育成を目指している。生産科学科には「作物」「野菜」「果樹」「草花」「畜産」の5つの専攻があり、1年次ですべての専攻の実習を経て、2年次からは各専攻に分かれて専門知識を身につけていく。

●広がる循環型農業の輪

「畜産専攻」では、「第11回イオンeco-1グランプリ」で最高賞にあたる内閣総理大臣賞を受賞した。5年間の歳月をかけて取り組

んできた養豚における食品循環資源を活用した「エコフィード」の研究が評価されたもので、生徒と担当教員らが真剣に取り組んできたプロジェクトが初めて日本一の称号を獲得した瞬間だった。

また、「作物専攻」の生徒が栽培しているブランド米「弓形穂」は、畜産専攻生が飼育しているブランド豚「あかりのぼーく」の排泄物と、作物専攻生が手がけたブランド米である弓形穂のもみがらを堆肥化したものが使われている。さらに、明野高校オリジナル純米吟醸酒「明野さくもつ」の醸

造までを校内の施設で一貫して行っている。地元企業の食品廃棄物と、「明野さくもつ」を作る過程で生まれる酒粕、弓形穂のくず米をあかりのぼーくの飼料に与える従来のサイクルに加え、市内の有限会社二軒茶屋餅角屋本店と共に商品開発をした麦酒「SUSTAINA BEER」から排出されるモルト粕も利用した。

これによって、関連する商品から廃棄されるものすべてをムダなく利用できる新たな仕組みを構築した。同校では地域企業と連携した商品開発と循環型農業を実践し、持続可能な未来を目指している。

「ダイコン農家の跡を継ぐために、本校入学後は野菜の栽培方法を学びたいと考えていた生徒がいまし

た。しかし、自宅ではできない経験や、地域の農家をはじめ、企業で活躍するみなさんとのつながりを広げていくうちに、現在は作物専攻で循環型農業について学びを深めたいと考えるようになったと聞きます」と、進路指導主事の竹村保範教諭は話す。

農業を学ぶことに意欲的な一人の生徒の影響が、良い形で周囲の生徒にも広がっていることを嬉しく思うと同時に、知識や技術を少しでも多く身につけたいという生徒らの期待に応えられるように指導していくと、竹村教諭。

今後は、地域企業との連携による持続可能な循環型農業を普及させることが目標だ。同校の取り組みから目が離せない。

高校生対象添削教材

書いて考える進路

大学進学希望者の試験対策に有効

生徒に身近な題材で、かつ300字という少ない字数から始めることができるため、文章を書くことが苦手な生徒であっても抵抗感なくスタートさせることができます。

学年を通じた進路指導に活用

各学年の進路指導ポイントや卒業後の希望進路を見据えた「総合的な探究の時間」の流れに対応できるよう、段階的に生徒の進路にちなんだテーマを設定しています。

*本教材は有料でご案内いたします。添削の有無や字数によって金額が変動するため、高校内での実施を希望する場合はお問い合わせください。

お問い合わせ 進路情報研究センター ライセンスアカデミー TEL 169-0073 東京都新宿区百人町2-17-24 TEL 03-5925-1706 URL https://licenseacademy.jp/

高校生対象添削教材

書いて考えるキャリア

キャリア教育の視点から添削指導

国語力・文章力の向上を促進するための講評に加え、キャリア教育の視点に立ったアドバイスを行うことで、進路選択のミスマッチを未然に防ぐこともねらいます。

幅広い実践力を習得

生徒に社会との接点を考えさせることにより、小論文や面接に対する実践的な力を養い、大学入試・就職採用試験等の対策としての効果が期待できます。

*本教材は有料でご案内いたします。添削の有無や字数によって金額が変動するため、高校内での実施を希望する場合はお問い合わせください。

お問い合わせ 進路情報研究センター ライセンスアカデミー TEL 169-0073 東京都新宿区百人町2-17-24 TEL 03-5925-1706 URL https://licenseacademy.jp/

OTA 太田商事株式会社

1655年(承応4年)創業の老舗企業

●基幹事業 建設資材、エネルギー、外食事業
●設立 1921年(大正10年)
●資本金 48,000,000円
●従業員数 270人

会社の強み・社風

当社は愛知県の西三河を中心にガソリンスタンド・コメダ珈琲を運営し、そのほかにも地域ムタイプの駐車場に根差したさまざまな事業を展開し得制度も充実しています。ワンルー います。

TEL 448-0841 愛知県刈谷市南桜町1-73 OTAビル9F
TEL 0566-23-5811
URL http://www.ota-shoji.co.jp/

大学・短期大学、企業の多様な取り組みや活動を 「学び」&「キャリア」の視点と取材で多面的に描き出します



●高等学校教諭のみなさまに愛されて24年

『大学新聞』が創刊したのは、平成12(2000)年1月。

高校生の進路指導に役立つ大学・短期大学の情報や教育現場の現状を取り上げる月刊専門紙として誕生しました。

高等教育をめぐる情勢や教育行政、大学入学者選抜の動向、また、高校生・大学生を取り巻く就職環境や労働市場、キャリアデザインなどに資する情報もお届けしています。

先行きが不透明で見通すことが困難な時代だからこそ、より確かな進学・教育情報や就職市場動向などをお伝えする『大学新聞』を、ぜひご活用・ご愛顧ください。

- 全国の大学・短期大学・高等学校にお届けしています
- 大学・短期大学など、高等教育情報に特化した日本唯一の月刊専門紙
- 優良企業や堅実経営企業などの「社会貢献活動」や「SDGs研究」「高企連携」「学社融合」など、「学び」と「職業」「業界」、そして「仕事」に関するキャリアデザイン系領域の最新ニュースやトピックが満載
- オープンキャンパス・グローバル系・企業の最新インフォメーションも充実

詳しくはウェブサイトへアクセス！



大学新聞社

<https://daigakushinbun.com>

本社 東京 支局 札幌・仙台・名古屋・大阪・福岡

〒169-0073 東京都新宿区百人町 2-17-24

電話【編集】03(5925)1668(代) 【営業】03(5925)1931(代)

近畿・中国・四国

食肉業界の総合商社
多様なキャリアパス

株式会社
萬野屋

「興味・関心」をキャリアへつなげる万全の企業体制 社員との綿密なコミュニケーションが生み出す信頼関係

株式会社萬野屋（本社・大阪市、萬野和成代表取締役）は、焼肉店などの「飲食店経営」をはじめ、食肉を飲食店やスーパーマーケットに卸す「食肉卸」、精肉を販売する「小売販売」、さらには「店舗プロデュース」など、多様な事業に進出している「食肉の総合商社」だ。専務取締役・菅野功氏を訪ね、高校新卒就職志望者の採用活動で重視していることや働きやすい職場づくりについてお話をうかがった。

「好き」を見つける職場選び 極めて多彩な職種が特徴

高校新卒者の採用に当たっては、料理や食品、サービス業に興味・関心を抱いているかどうか、また、当社で働くことにより、担当する業務を通して「好きなこと」や「前のめりになれること」を探し出せる人材かどうかを一つのポイントにしています。まずは、「料理が好き」という気持ちか

ら当社の業務を通して、一人ひとりが自分なりの好きなことや興味が持てそうなことを発見し、実際に体験してもらいたいと考えています。

幅広く事業を展開する当社には数多くの職種があります。飲食店における「調理」や「接客」、小売店の「販売員」や「加工員」、セントラルキッチン「惣菜加工」「調理補助」、また業務用卸の「食肉加工」「営業

など、さまざまな役割がある中で何か一つでもみなさんが自分に向いている、あるいははじめそうだという職種が見つけれられるのではないかと期待しています。

興味・関心から始まる成長 より良い職場づくりに注力

入社後の配属先は、研修時の適性や新入社員自身の興味・関心を基本として考えていきます。研修を通して興味・関心が変化した場合には、入社当初の希望とは異なる職種に配属することにも柔軟に対応しています。また、営業希望の社員が、営業活動上で必

要となる知識を蓄えるために、店舗で調理や接客に携わりたいと申し出て知見を広げようとするのも珍しくはありません。ほかの職種にも興味の幅を広げていくことができれば、キャリアパスを多様化させることも可能でしょう。調理ができれば次は接客をマスターするというように、現実的かつスキルアップにつながる目標を設定して、着実に知識や技術が身についていることを実感できれば素晴らしいですね。当社だからこそのキャリアアップの流れを存分に活用して欲しいのです。

また、特に新入社員のフォローとして実践しているのは、スタッフ間の関わり合いを増やすという取り組みです。面談や朝礼、業務報告などの回数を増やし、スタッフ間のコミュニケーションがより多く図れるよう、私から各店舗の店長に声かけを欠かさないようにしています。

業務日報は紙ではなく、社員専用のウェブサイト書き込む方法をとっています。そこには、書いた本人に加えて、店舗で働くほかの社員がコメントを残す仕組みを導入しています。仕事はチーム単位が基本ですが、食器洗いや掃除などの一人で作業には目が届きにくい恐れがありますよね。そうした部分にも注目し、労いの言葉やアドバイスを送ることで、社員一人ひとりをしっかりと評価できる体制が整っているのも当社ならではの魅力です。

また、新入社員が店舗になじむことができるよう既



専務取締役
菅野功氏

存の社員が積極的にコミュニケーションを取りやすい環境を作り出すように心がけています。上司と部下の意思疎通が円滑な店舗は売り上げも高く、良い雰囲気に満ちています。

重要なのは現地での企業訪問 志望を固める過程が大切

就職希望者が就職活動において最も避けるべきなのはミスマッチです。自分に適した企業を見つけるために就職情報を数多く収集し、企業訪問を積極的に行い、現場でしか分からない情報を収集することが必要です。自分の好きなことややりたいことを軸に、数ある選択肢の中から自分自身が悩み、選び抜いた企業に入社することで、苦難があったとしても乗り越えられるのではないのでしょうか。

教員のみなさまにお願いしたいのは、「企業説明会」や「企業訪問」の機会を生徒に数多く設けていただきたいということです。生徒が自分の可能性や興味のある業界を見つけ、心から入社したい企業を見つけることができれば、オリジナリティと熱意にあふれた志望動機を持つことができるはずで、そのような場を増やすことで、社会で活躍する力を備えた生徒が増えることを期待しています。

入社2年目▶若手社員インタビュー

接客のスペシャリストを目指して

初めて将来の進路を意識したのは、中学3年生の時です。もともと人と関わることが好きだったため、接客を通して人を笑顔にする仕事に就きたいと考えていました。質の高い接客を学ぶべく就職活動をしている時に、株式会社萬野屋に見学に行ったのが大きなきっかけとなりました。

実際に見学してお話を聞くと、従業員のみなさんが、自分たちが扱う食材に自信と誇りを持っていることに魅力を感じました。私も顧客や消費者のみなさんにこの商品の素晴らしさをお伝えし、また来店したいと言われるような接客をしたいと強く思い、入社を決めました。

萬野屋では、新入社員研修が半月間行われます。同期社員とのロールプレイングを通して接客のノウハウを基礎から学び、店舗に立つまでサポートします。その後、4月後半から店舗配属となるのが通常の流れです。

また、本社での研修だけでなく、一般社団法人大阪外食産業協会（本部・大阪市）の研修に参加し、外部講師の指導を受ける機会があります。当社が提携しているビール製造会社や精米会社の担当者が実際に来店し、新入社員にビールの注ぎ方や米の研ぎ方などを直接指導するなど、当社独特の内容の研修となっています。配属店の上司から教わるのはもちろん、専門家から正しい知識を得られるというのは、商品の品質にこだわりを持っている萬野屋だからこその強みでもあります。研修内容はアルバイトスタッフにも共有され、店舗全体のレベルが上がることで高い顧客満足度につながっていることも大きな特徴の一つです。

将来の夢は、自分の店を構えることです。その実現のために、現在は萬野屋で接客のスキルを高め、食材についての知識を得ることで日々勉強を重ねています。萬野屋で学



黒木和博さん
(大阪府教育センター附属高等学校出身)
んだことは、飲食業を志す者としてすべてが私自身の糧となっています。

高校生のみなさんには、能動的に行動し、情報を発信することを意識して欲しいと思います。誰かが行動する前に自分から動き、授業で積極的に発言してみると良いでしょう。その積み重ねが、いずれ社会に出た時の自信を生み出し、行動ができる大人へと成長させてくれるでしょう。

また、就職を検討しているみなさんは、気になる企業の情報は自分から積極的に集めることが大事だと思います。学校時代から情報収集をし、主体的に行動することが希望する将来の進路の実現へとつながっていきます。そうした努力は社会に出た時に自らを助ける力として必ず実ると信じています。

萬野屋 株式会社萬野屋

肉屋が唸る 本物の肉屋。

●基幹事業 飲食店(焼肉店・肉料理店)の経営、食品卸・小売販売
●代表者 代表取締役 萬野 和成
●設立 1997年(平成9年)
●資本金 10,000,000円
●従業員数 220人

会社の強み・社風

「世界一美味しい焼肉屋さんを作りたい」。そんな思いで生まれたお店です。店舗に配属後、お肉の知識やおもてなし、マナーを学びながら、調理や接客の基礎を身につけます。和牛の仕入れから焼肉店展開まで、すべてを内製化し食肉に関する高いノウハウを蓄積しています。みなさんもこだわり抜いたお肉で、お客様のお腹と心を満たしてみませんか？

仕事紹介

自分の「大好き」を仕事にしよう！
お肉のプロがたくさん活躍しています

焼肉店での「ホールスタッフ」や「調理スタッフ」、精肉店の「販売員」「加工員」、萬野屋切肉株式会社での業務用卸の「食肉加工」「営業」など幅広い仕事ができます。仕事に誇りを持ち、切磋琢磨し合える環境が整っています。

入社後のOJTをはじめ社外のセミナーに参加することで、接客や調理、マネジメントのスキルを向上させる機会があります。キャリアの選択肢が幅広いのも魅力の一つです。

先輩からのメッセージ

高島 翔さん
配属 本店
令和2年4月入社
宮崎・私立
延岡学園高等学校卒業



牛の部位をたくさん取り扱っているところや、調理場の設備が整っているところ、また衛生管理もしっかりしているところに魅力を感じ、入社しました。

お肉の切り方や接客のコツなど、先輩から技術を学び、自分のものにできるよう、高校時代に学んだ「的確にいていいに」を念頭に働いています。



高校生の確かな進路選びをサポートします!!

大学新聞社 ☎03-5925-1668

お問い合わせ

ライセンスアカデミー ☎03-5925-1656

大学入試合格応援シリーズ

志望校合格を目指す高校生のための進学情報誌です。『大学受験合格GUIDE BOOK』の『秋版』では、現役大学生による受験勉強のアドバイスや受験期の体験談を紹介しています。各誌紙とも、個別大学・短期大学・専門学校等の最新情報と共に入試日程等もお届けします。

大学受験 合格 GUIDE BOOK (春版)

大学受験 合格 GUIDE BOOK (秋版)

総合型選抜&AO入試 受験ガイド

地方入試告知リーフレット

■東日本版 ■中部・西日本版

■北海道版 ■東北版 ■関東・首都圏版 ■甲信越版 ■東海4県版 ■北陸版 ■近畿版 ■中国・四国版 ■九州版 ■沖縄版

『系統・分野別情報誌』シリーズ

高校生が、高校卒業後の進路としての学校を選ぶ上で重要な基準となる可能性が高い「好き」「興味」に焦点を当て、系統・分野、領域・ジャンル別の全7冊に、分かりやすくかつ体系的に編集しています。

2025年度版 (発刊予定) 最新刊!

No.1 食物、栄養、調理、製菓、生活、服飾、健康、スポーツ分野

No.2 理容、美容、メイク、エステ、ネイル分野

No.3 国際、経済、経営、法、公務員、ビジネス、語学、文学、教育、留学、ホテル、トラベル、エアライン分野

No.4 芸術、音楽、造形、美術、デザイン、まんが、イラスト、アニメ分野

No.5 理・工学、環境、情報、通信、機械、自動車、建築、農学、バイオテクノロジー(生命工学関連)分野

No.6 看護、医療、福祉、保育、幼児教育分野

No.7 動物、植物、バイオテクノロジー(農学関連)分野

大学・短期大学研究シリーズ

『大学・短大 進路のてびき』は、大学と短期大学の学びや入試・入学選抜情報、学費の実際など、「受験生なら知っておくべき」基本情報やアウトラインを詳述。『大学探しBOOK』は、「学びたいこと」から進学先が絞り込めるように3分冊構成になっています。

大学・短大 進路のてびき

学べることから見つける大学探しBOOK

■東日本版 ■中部・西日本版

①人文科学、社会科学、教養・総合科学
②理・工、学、農、医、薬・保健 ③教育、芸術、家政・生活科学

進路選択&専門学校の学びシリーズ

『アプローチマガジン』は、最終学年になる前の高校1・2年生向けに、高校卒業後の「進学」や「就職」など、さまざまな進路について整理したガイドブックです。『専門学校 進路のてびき』は、専門学校とその制度全般に関するA to Zを分かりやすくまとめています。

アプローチマガジン

専門学校 進路のてびき

職業実践専門課程 ガイドブック

■東日本版 ■北海道版 ■東北版 ■東海・北陸版 ■近畿・中国・四国版 ■九州・沖縄版

仕事とキャリアデザインシリーズ

高校を卒業後、進学を果たしたとしても、最終的には多くの人が「働く」ことになります。「キャリアデザインブック」は、就職までのプロセスはもちろん、将来のキャリアパスを切り拓いていく上で有用な資格や検定試験等に関する多様なトピックを詳述し、働くことに対する意識づけを担います。

進路のてびき 就職・公務員編

就職・仕事・資格・起業につながる学校

仕事・資格ガイド

仕事から見つける学校資料請求本

■就職活動スタート号 ■就職活動大応援号 ■キャリアデザイン準備号

保護者&教員、自力進学シリーズ

進路環境が大きく異なる保護者世代に現代の高校生との対比を示す『保護者のみなさまへ』、進学資金に関する多様なヒントを伝える『自力進学シリーズ』、また進路指導資料としての評価も高い『高校担任教諭必携進路指導ハンドブック』など、高校生と一緒に進路選択を考える情報誌です。

保護者のみなさまへ

自力進学 進学支援・学費サポートガイド

学費ゼロと返済不安のない進学先選びガイドブック

高校担任教諭必携 進路指導ハンドブック

■東日本版 ■中部・西日本版

高校生のための進路応援シリーズ「地域特集ガイド」等

各地域・路線網・交通手段などから考える進路&進学情報誌です。地元の大学・短期大学・専門学校、また企業等の最新情報はもちろん、当該エリア・路線の交通機関&主要通学ルートなどをはじめ、進学事情や通学環境、労働市場や産業構造等も解説しています。

通える学校

がんばれ! 青森県の高校生

長野県の高校生のための進路応援BOOK

新潟県の高校生のための進路応援BOOK

福井・石川・富山の高校生のための進路応援BOOK

愛知県三河地区・静岡県西部の高校生のための進路応援BOOK

中国・四国地方の高校生のための進路応援BOOK

沖縄県の高校生のための進路応援BOOK

①中央・総武線版 ②東海道線版 ③東武東上線版 ④常磐線版 ⑤高崎線・宇都宮線版

イベントガイドシリーズ

『進路相談会徹底活用ガイドブック』では、会場形式相談会の概要を示しています。また、『見学会のてびき』は、企業または大学・短期大学・専門学校など、各種見学会参加時に活用効果が高いハンドブックです。『オープンキャンパスBOOK』は、各校のオープンイベントを特集した進学情報誌です。

進路相談会徹底活用ガイドブック

見学会のてびき

オープンキャンパスBOOK

■東日本版 ■北海道版 ■東北版 ■東海・北陸版 ■近畿・中国・四国版 ■九州・沖縄版

その他多彩なラインナップ

令和4年度からの新しい教育課程に盛り込まれた「総合的な探究の時間」を念頭に置いた『探究への導き』をはじめ、看護・医療系学校や外国人留学生等、ある特定のテーマやトピックスに絞ったガイドブックなど、非常に多彩な視点とユニークな切り口が好評です。

探究への導き

医療系学校入試データ

日本留学データ

Global Education

フューチャーライブガイド

■東日本版 ■中部・西日本版

*上記のほかにも豊富に取り揃えています。また、新年度版の発行や、統合・合本化等に当たり、名称や編集内容が変更となる場合があります。詳しくは、大学新聞社(☎03-5925-1668)またはライセンスアカデミー(☎03-5925-1656)までお問い合わせください。



博多女子
高等学校

商業の学びを活かして地域創生 社会とつながりを持つ選択授業

博多女子高等学校(福岡市、影木繁校長)では、商業科目を学ぶ「トータルビジネス科」の選択授業において「商品開発」に取り組んでいる。中嶋直子教諭と嶋夏弥教諭を訪ね、地域課題の解決を目指して商品を生み出す「商業実践」の内容について具体的な話をうかがった。

●社会で輝く女性を育成

建学の精神に「自主独立の人間を育成」を掲げる博多女子高校が目指しているのは、女性の特性を活かした教育による社会的な自立の促しと人間形成だ。そのためさまざまな「女性教育カリキュラム」を展開している。1年次では、華道や茶道の指導・実習、2年次ではコミュニケーションの基本である礼法研修、3年次では洋食マナー指導や受付実習など、学年ごとに多種多様なメニューが用意されている。

同校が構える設置学科は「普通科」と「トータルビジネス科」の二つ。普通科には「特別進学」「普通進学」の2コースがあり、国・公

立大学や難関私立大学などへの現役合格を一つの目標としている。

トータルビジネス科では、「スーパーライセンス」「トータルビジネス」の2クラスを編成。ここでは、商業科目について学び、高度な資格を取得して学校推薦型選抜を活用して国立大を中心とする大学現役合格や税理士などの商業のスペシャリストを目指す。

●生徒中心の「商品開発」

トータルビジネス科には、実際の企業が行うような「商品開発」の選択授業が設けられている。今年度で13年目となるこの取り組みは、座学で勉強するだけでなく、企業や行政、

生産者など、地域社会とのつながりを持つことを目的に開始された。

2・3年次の授業選択者は「地域共創部」という部活動のもとで授業内容を共有しながら、地域活性化と自分自身の成長を目指す。校内に模擬会社である「Hakata Girl's Shop」を設立し、生徒が社長や副社長などの役職を務め、組織で動くことの意味を学んでいる。

2年次では、商品開発に必要な知識のほか、課題を抱えた地域に調査に赴いて現状を把握したり、現地の人々との意見交換やアンケートを取ったりする。3年次では、商品の販売や一般企業が会する商談会でプレゼンテーションや営業活動を行うなど、2年次の体験内容をさらに深めていく流れとなっている。

これまでに、コンビニエンス・ストア大手の株式会社ローソンとコラボレーションした「糸島産ふともずく」や放置竹林問題解決のために国産の糸島メノマを使った「博多バリメン」など、生産者と連携してさまざまな商品の開発・販売を手がけてきた。

最近では、企業から「新しくノートを作りたいが、どのようなものを作ればいいのか分からない。どうすれば良いか」という相談があった。これを受けて、生徒らは企業がノートに求める要素についてアンケートを取り、集計結果からデザインなどを提案した。

商業科目の一つとしてマーケティングの勉強もしているため、「どのようなユーザーをターゲットにするのか」「購入者が欲しいと思う商品は何か」を考える際に、日常の学びが役立つという。座学とリアルな体験が有機的に結びつくように設計されているのが博多女子高校の特色だ。



社長・副社長の生徒を中心にさまざまな案を出し合う

商業科主任の嶋夏弥教諭は「中学時代は勉強に苦手意識を持っていたという生徒が、本校入学後に簿記や情報などの検定受験を頑張っている姿を見えています。これからも自分の強みを見つけて伸ばして欲しいと思います」と語る。

また、進路指導を務める中嶋直子教諭は「主要5教科は中学校までに習った内容の続きを高校で勉強しますが、商業科目は高校から新しく始まるため抵抗感が少ないのかもしれませんが、実践的な商業の学びは、人生をより豊かにしてくれるはずですよ」と、強調する。

今後も、同校は女子校ならではの教育活動を通して、実社会でも家庭でも輝くことができる女性の育成を目指していく。



長崎県内への就職を促進する有益な機会を創出 企業担当者と高校教員による情報交換会を開催

長崎県は令和5年12月12日、高校生の県内就職を促進することを目的に、企業の人事・採用担当者と高校の進路指導担当教員との意見交換会を、諫早市中央体育館メインアリーナにおいて開催した。

今回参加した教員の勤務校は、諫早市の長崎県立諫早東高等学校、長崎県立諫早農業高等学校、長崎県立諫早商業高等学校、長崎県立諫早高等学校(定時制)、鎮西学院高等学校、創成館高等学校、大村市の長崎県立大村工業高等学校、長崎

県立大村城南高等学校、長崎県立大村高等学校(定時制)、向陽高等学校、佐世保市の長崎県立佐世保工業高等学校、島原市の長崎県立島原工業高等学校の全12校。当日は県央地域を中心に60社の人事・採用担当者らが出席し、高校新卒者就職に関する意見交換や円滑な採用に向けた情報交換が積極的に行われた。

また、12月20・21日には建設企業と高校の連携を通して県内建設業への就職支援につなげることを目的に、建設企業の人事・採用

担当者や高校の就職担当教員との意見交換会も開催された。今回で4回目の開催となったこの意見交換会では、20日は長崎県庁において、21日は佐世保市の県北振興局天満庁舎において実施された。

初日となった20日は長崎市内から4高校の教員が出席。翌21日は長崎市と佐世保市から2高校の教員が出席。参加した建設企業からは、両日とも20社程度の合計約40社程度の担当者が出席したほか、長崎県内の建設業を技術的・経済

的・社会的に向上させることを目的としている一般社団法人長崎県建設業協会(本部・長崎市)および長崎県の担当者も出席するなど、会場は意見交換に相応しい構えとなった。

当日は建設企業の人事・採用担当者と高校の進路指導担当教員が少人数のグループに分かれて意見交換を行ったほか、「企業の魅力アップと人材育成の取組」をテーマにした建設企業の担当者による事例発表も行われた。

「建設業」の事業・業務については、令和6年4月より働き方改革の一環として、これまで猶予されていた時間外労働の上限規制が適用されることになって



いる。より働きやすい環境に向けた法整備が進んでいる状況で、建設業界への就職を希望する若者にとっては追い風が吹いていると言えるだろう。

建設業は、水道・電気といったライフラインや道路・建物等のインフラの整備を通して人々の生活を支える、社会になくてはならない産業だ。長崎県内の高校生にこうした産業の魅力をいかに伝えていくかが、今後のカギになるだろう。

会員企業 募集中!! **キャリア教育支援協議会**

高卒採用は宝の山

森部好樹 著、日経BP社 発行

成長企業は高校新卒者を積極採用していた!

将来の伸びしろが大きく、多彩な現場で活躍できる高校新卒者の採用実態、社員のインタビューなどを豊富に掲載。スタート・アップ、ベンチャー、中堅・中小企業のための理想的な人材獲得戦略を指南する一冊です。

お問い合わせ **キャリア教育支援協議会**
〒169-0073 東京都新宿区百人町2-17-24
TEL 03-5925-1659(ライセンスアカデミー内)

令和6年度入学者用 好評既刊

沖縄県の高校生のための進路応援BOOK 2024

巻頭特集 沖縄県から未来へ羽ばたこう!! 先輩たちの希望進路実現ストーリー

沖縄県内 高校生の就職事情・採用環境

進路決定までの流れ **進学編** **就職編**

▲最新刊(2024年度版)

お問い合わせ **進路情報研究センター ライセンスアカデミー**
〒169-0073 東京都新宿区百人町2-17-24
TEL 03-5925-1656
URL https://licenseacademy.jp/

第57号 高校の先生方との連携による紙面編集

キャリア & 就職支援ジャーナル

高等学校版

大学新聞社

発行日●令和5年12月26日
発行人●白田 康則
編集人●川窪 達也
取材・執筆・編集●加藤 陽一 鬼頭 葵 田中めぐみ 渡部真由子 藤田 曉代 川井 仁美 伊藤美穂 菅家里 音
紙面デザイン&DTP制作●三井加洋子

●ご意見・ご感想をお寄せください
〒169-0073 東京都新宿区百人町2-17-24
編集 ☎ 03-5925-1668 営業 ☎ 03-5925-1705
E-mail info@daigakushinbun.com
URL https://daigakushinbun.com/

*本紙の記事・写真、および図版等の無断転載、複製、複写、翻訳を禁じます。[V-3330,766515#]
©大学新聞社 2024 Printed in Japan

スリランカの教育トピックス

対面形式「日本留学フェア」、24年2月に開催!

“南アジアの玄関口”スリランカ
継続学習が可能な教育制度

「聖地アヌラダプラ」や「古代都市ポロンナルワ」といった仏教寺院などの世界遺産をはじめ、紅茶(セイロンティー)や宝石などの世界的な産地として知られるスリランカ民主社会主義共和国。1975年に英国から独立した後、南アジア有数の経済成長を遂げる一方、ここ数年は深刻な経済危機に端を発した政治的な混乱の行方にも注目が集まっている。

本稿では、スリランカの教育制度や日本語教育事情のほか、来年2月に開催が予定されている対面形式「日本留学フェア」を紹介する。

スリランカの教育制度
日本語は人気の第二外国語

国際交流基金(本部東京・新宿区)によると、スリランカの教育制度は初等教育5年間、下級中等学校4年間、上級中等学校(Oレベル)2年間、高等学校(Aレベル)2年間の「5-6(4-2)-2制」となっている。

義務教育は2016年より、5歳から16歳までに改められた。上級中等学校の卒業時、および高校卒業時には、国の試験が用意されており、それぞれ「General Certificate of Education Ordinary Level(Oレベル試験)」と、「General Certificate of Education Advanced Level(Aレベル試験)」と呼ばれている。11年次生の12月に高校入学資格試験に相当する「Oレベル試験」を受験・合格すると高校進学資格が与えられ、約2年間の教育を受ける。その後、大学入学資格試験に相当する「Aレベル試験」に臨み、合格すると大学入学資格が与えられる仕組みとなっている。

しかし、スリランカでは設備や予算の関係で大学の入学定員枠が限られており、大学入学資格を得た者すべてが実際に大学に入学できるとは限らない。日本の外務省が示す当地の大学進学率は約15%。この数字から、進学自体が容易ではなく、難関だということが分かるだろう。さらに、高等教育省が管轄する国立大学および高等教育機関では学費が無料となるため、競争率がより高くなっている現状がある。

公用語はシンハラ語とタミル語だ。英語はこの両言語をつなぐ言語(連結語)との位置づけで、初等教育の入学時から英語を第一外国語として必修で学び始める。日本語は、1979年にAレベル試験の選択科目として、2001年にはOレベル試験の選択科目として導入された。そのため、スリランカ現地では10年次生(上級中等学校)からの学習が可能だ。2023年1月時点で、Oレベル試験とAレベル試験のいずれも、日本語は第二外国語の選択科目の

中でアラビア語に次ぐ2番目の人気を誇っている。

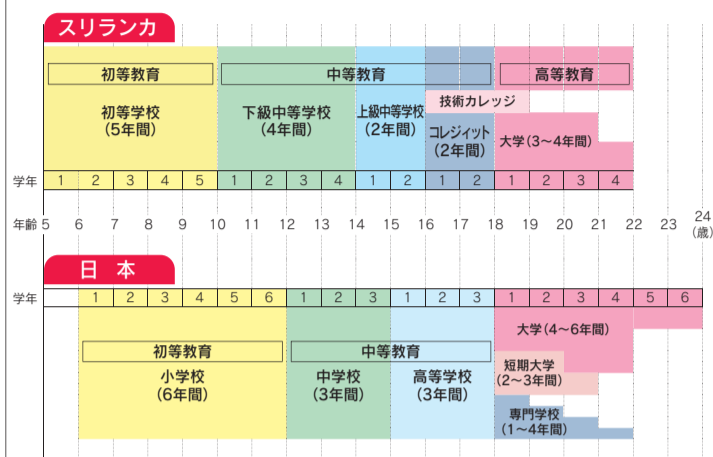
日本と文化的な共通点が多数
継続して日本語を学べる環境

『2021年度海外日本語教育機関調査報告書』(国際交流基金、2023年3月31日)によると、スリランカにおける日本語学習者は21年度時点で9,746人。世界の国・地域別で第24位となっている。

スリランカでは自動車や電化製品などの日本製品、ODA(政府開発援助)による建造物など、日本の経済力を日常的に目にする機会が多いことに加え、日本でも社会現象となったテレビドラマ「おしん」放映の影響や仏教国であることなどから、日本に文化的共通点を見出す人々が少なくないという。また、アニメーションやマンガなどのサブカルチャーに親しみを持たからなのだろう、日本語学習を始める者も特に若年層で多いとされている。

日本語の学習動機としては、中等教育機関の学習者では日本や日本語に対する興味・関心から言語を学び始める者が多いようだ。また、民間の日本語教育機関では、大学や資格試験などの受験準備、留学のためといった実利的な動機が比較的多いと報告がある。

スリランカ・日本の学校教育制度(概略)



*外務省・文部科学省の発表資料などをもとに編集部で作成。いずれも複数存在する学校系統・ルートの中から代表的なものを抜粋しているため、修業年限や接続の仕方など、これによらないものもある。また、所定の学校卒業・修了、指定単位の修得等を基礎資格として実現する他の学校等への編入学については基本的に割愛。なお、海外諸国・地域に関しては、現地の制度変更等により、ここに示す情報と最新の状況が異なる可能性がある。

スリランカの日本語教育が他国・地域に比べてユニークなのは、中等教育段階から日本語を選択科目として履修でき、その後も継続して高等教育まで勉強し続けることができる環境が整備されている点だ。仮に、一人の生徒が10年次生(上級中等学校)から日本語を学び始め、大学でも日本語を専攻した場合、合計8年間の日本語学習歴を持つことになり、それが高い日本語能力を身につけた人材の輩出につながっている。

復興庁主催の作文コンクール
スリランカの学生が最優秀賞

直近の日本語教育トピックスとして、12月4日に復興庁主催の「福島」をテーマとする外国人日本語作文コンクールの表彰式が行われ、スリランカのグナシンハ・ラクミニ・エランガー氏が「最優秀作品賞(復興大臣賞)」を受賞したことを紹介したい。

これは、日本語による作文をきっかけとして、世界中の日本語学習者が2011年3月の東日本大震災と福島第一原子力発電所の事故以後の福島の復興の現状や安全性と魅力などについて理解し、風評の影響の払拭を図ることを目的とする、復興庁が「福島」をテーマに初めて開催した外国人日本語作文コンクールだ。日常生活での使用言語が日本語以外の者で、海外または日本国内で日本語を学ぶ者を対象とする。「私の心のなかの福島」をテーマとする日本語作文を、専用ウェブサイトからオンラインで募った。本年7月10日~10月10日の応募期間に、国内外の31の国・地域か

ら878作品の応募があり、グナシンハ氏の作品「夢をくれた福島 ありがとう!」が、見事に「最優秀作品賞(復興大臣賞)」を受賞した。

24年2月に待望のイベント
「日本留学フェア」を開催予定

現在からおおよそ1年前の2022年10月8・9日、進路情報研究センター・ライセンスアカデミー(本社東京・新宿区)は「日本留学フェア in スリランカ オンライン説明会」を開催した。当日はウェブ会議サービス「Zoom」上で、日本語学校などの担当者が講演形式でスリランカ現地の参加者に日本留学に関する情報を届けた。初日には239人、二日目には153人の参加があった。

参加者の中には、スリランカ現地で大学を卒業して学士号を持つ者が少なかった。「日本語能力試験(JLPT)のN2レベルを取得した後に、そのまま日本国内で就職したいので、日本語学校で勉強したい」という希望を持つ者が多かったほか、「スリランカ現地の大学の日本語専攻で学び、学士の学位を持っているので、日本語学校を経ずに直接大学院へ進学したい」という声も聞かれた。

ラ社は来年2月24・25日、スリランカのコロボ市にあるBandaranaik Memorial International Conference Hall(BMICH)で初めての対面形式の「日本留学フェア」を開催予定だ。同イベントをきっかけに、将来スリランカと日本の架け橋として活躍することを志す若者が増えることを期待したい。

「日本留学フェア in スリランカ オンライン説明会」アンケート集計結果

